

## 部門活動の活性化と教科教育学の確立をめざして

全国美術部門委員長 橋本光明（信州大学）

多くの教員養成系大学・学部にとって平成の20年間は、階段を上がりはじめたときの期待感もつかの間、その後の高みをめざしながらもなぜか上向きになっていないといった焦燥感や不安感ばかりが増幅しているように思います。法人化後は、市場原理が導入され、教員養成系大学・学部とともに美術部門も大きな転機にさしかかっています。この時期に私達部門会員は、将来のためにも自己改革を行う必要があります。

先に述べたように、階段を上がりはじめた昭和から平成に入る頃は、やはり時代が大きく移り変わる時でした。その頃の本部門は、教科教育学の確立を唱えて美術教育の改善に努めていました。そこで、簡単に当時を振り返りたいと思います。教大協は、昭和40年代から大学院設置の要望書を文部省（当時）に提出してきました。その設置の論拠は、教員の質の確保であり、そのために養成水準を修士に引き上げることが主張しました。そこでは、カリキュラムや履修のあり方などの改善も欠かせないことでした。

国の大学に修士課程が設置されはじめ大学・学部の研究基盤や体制が整い、目的大学としての地歩が固められると思ったその頃は、高い資質能力をもった修了生が教師となって保護者や社会の要望に応えてくれたり、博士課程の設置に重点を移すことでさらに豊かな学識を有した高度な専門職業人が育成されたりするという希望的観測がありました。しかし、すでにこの時期に、淡い期待を覆す動きがありました。定員の一部をゼロ免課程に振り返るといった教員養成系大学・学部の再編論が、18歳人口の減少と教員採用率の減少などを理由に進められていました。その頃から年々低下する学生の教員採用率は、大学・学部の存在を弱めていくことになり、あらためて一般大学における教員養成との関連もあわせて開放制の中での教員養成系大学・学部の位置づけが問題になってきました。

当時、故真鍋一男部門委員長が心配されていたことはゼロ免課程の導入でした。このままでは教員養成系大学・学部における美術教育は、その専門的な役割を捨ててしまいかねない、美術家養成所にならないため

にも、大学院の充実のためにも教科教育学の確立が必要であることを熱く語っていたのを思い出します。

また平成元年には、長南光男理事長が大学美術教育学会の開放性を謳って部門会員以外の研究者や実践者の入会（特別会員）を勧めるという大英断を下して教育研究の充実を図りました。そこにはさまざまな理由がありますが、国大協の「文科、理科、あるいは芸術技術の専門家教育の意識が強く、学生を教師として育てる意識はしばしば希薄である。（略）断片的な専門知識の授受に陥っている場合もある。（略）教員養成のための研究と教育についての共有基盤が明確でない場合も多かった。」との厳しい評価を挙げておきます。（「大学における教員養成」国立大学協会 平成7年5月）

さらに平成13年には、教員養成に携わる教員の間にカリキュラムについての共通理解がないことを「在り方懇」が指摘しました。これに対処するために教大協は、平成19年に遅まきながら「モデル的なカリキュラム」の策定を提案しました。（「教員養成カリキュラムの到達目標・確認指標の検討」を参照願います。）現在の「教職実践演習（仮称）」の導入で分かるように主体的なカリキュラム開発や4年間の教員養成課程の学習内容と構成を整備することなどが要請されています。

このような状況において、この度、松浦副委員長はじめ関係の方々のご尽力により「美術教育における教科内容学の検討ワーキンググループ」の設置が実現できました。自薦他薦によって教科専門の各分野と教科教育のメンバー20数名が決まりました。この3月から懸案事項に取り組みますが今までの経緯から見ても画期的で大変意義のある重要な活動と言えます。

これを機に部門の活性化を図りたいと考えています。皆様の積極的なかわりごとご協力を願っております。

## 美術部門の活動について

副委員長 松浦 昇（金沢大学）

日本教育大学協会美術部門は何をする団体なのか。

大学美術教育学会とは違った役割が求められ、過去には美術教育について素晴らしい調査や研究報告書が出されています。しかし、大学が法人化になってその活動が停滞していると言えます。

『在り方懇』の答申（平成13年11月）以来、美術教育における教科専門が何をしてきたのか、問われ続けています。日本教育大学協会の専門部会で、教員養成系大学・学部における「教科専門科目」の在り方に関する調査報告書が、法人化になる前年、平成15年3月に出版されています。その後各大学で教科専門の教育、教科内容学が検討されていくこととなりますが、美術教育でも検討されている大学があると聞いています。

しかし、教科専門の教科内容学について個別の大学で検討するよりも、日本教育大学協会の各部門で検討すべきであるという意見が根強くあります。個別の大学で検討されたことを各部門で纏めることができれば、それは素晴らしい事です。美術教育が教科内容学によって国民の付託に応え、説明責任を果たす事ができるなら、美術部門で検討を始めるべきだと思います。

## 大学美術教育学会高知大会に参加して

副委員長 大宮康男（静岡大学）

春も間近になって参りましたが、皆様におかれましては益々ご健勝のことと存じます。さて、本年度は教育の世界においては学習指導要領の改訂と教員免許更新制度の導入がありました。こうした教育界の激動の時期に第47回大学美術教育学会が高知大学で2008年11月2日(日)と3日(月)に開催されました。高知という会場にもかかわらず、参加者は多く、学会は大賑わいでした。開会式の後は課題研究「鑑賞教育の現状と課題」では、パネラーの提案の後、意見が交わされ、鑑賞に対する関心の高まりが感じられました。最近では美術館と学校、教員が連携して鑑賞教育をする機会が増えており、自由研究発表でもその実践例が報告されました。初日の午後はシンポジウム「新学習指導要領と教員の意識改革」で、教員免許更新制度も含めて、議論が展開され、美術教育のかかえる様々な問題点が討論されました。二日目の午前中は自由研究発表、そして学会総会で終わりました。このように激動の年に開催された大学美術教育学会高知大会は大きな成果があり、その前のInSEA世界大会2008も大盛況だったと聞いておりまして、美術教育に対する関心の高さのほどが伺えます。また、美術教育の問題点は学会が母体となって声を上げていかなければならないと思います。末尾になりましたが、大変なご苦勞をされた当番校の高知大学に御礼申し上げます。

## すべてがリセット

常任理事 藤澤英昭（千葉大学）

何かこれまでの文明や価値意識がすべてリセットされるような状況です。ますます国立大学（法人）協会の下部組織としての全国美術部門の活動はより良い美術教育教員養成に於ける協議を先取りして探し、リーダーシップをとっていく必要がある。最近、教育政策や教員養成と現場教員の再教育などが頭越しに決定され、どう処理するかについてあわただしく走らされている。

われわれの部門に、もはや何かを提案し、国民運動として展開していく覇気も能力もないとしたら、国家的な不幸である。

昨今の世界的な価値観の崩壊に際して何かを言わなければならない。

今こそ全国の部門協議会は英知を結集して、責任ある提案をしなければならぬような気がする。

## 専門家集団としての美術部門への期待

常任理事 藤江充（愛知教育大学）

日本教育大学協会は、国立大学協会の教員養成系大学・学部の教員からなる組織で、教科別に分かれた部門をもち、美術部門はその一つです。美術史講座の実験講座化など、この部門で協議したことが文科省の概算要求に反映されて来ました。ただ、国立大学の法人化にとともに、美術に限らずこうした部門の活動の内容などの見直し求められています。

教育「改革」の動きの中で、学校教育において育む能力やカリキュラムの開発などで、美術を含む芸術教科の果たす役割はますます重要になっています。学校教育の要となる教員、特に図画工作・美術を中心となってリードしていく教員を養成する大学の専門家集団としての美術部門が、どれだけその期待に応えられるかが問われていると思います。

## 総務局長挨拶

総務局長 増田金吾（東京学芸大学）

平成20・21年度の総務局長を仰せつかりました。

本部門は、昭和27(1952)年に「日本教育大学協会第二部美術部門」(国立教員養成系大学・学部の美術科の大学教官で組織され、機関加盟)として発足しました。

その後、昭和38年より大学美術教育学会を併設し、部門委員長は、学会理事長を兼ね、長く学会と表裏一体をなして運営がなされてきました。

活動内容を見れば、第1回の全国協議会より、多くの協議題について議論を重ね、文部大臣等にも幾多の要望書を提出してきました。今日では、当時と状況が異なり、その方法も考えねばなりません。橋本委員長の指揮のもと、我が国の美術教育のよりよき姿を考え行動していかなばなりません。

総務局スタッフと力を合わせ、我々のなすべき役割を果たして参りますので、部門会員の皆様にはご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 内憂外患

附属学校委員長 岩崎由紀夫

(大阪教育大学・大阪教育大学附属天王寺小学校長)

附属学校園は大学との連携を図り、教育実習や共同研究の面で大きな役割を果たしてきました。今後もそのことに変わりはありません。しかし、国が一定の教員を養成するという方針が平成17年度より撤廃され、国公立による自由な競争的環境のもとで、その質が問われるようになりました。取り巻く現状としては、運営交付金の削減、附属学校園の再編統合といった中期目標に対する評価の実施、公立学校での教育実習生増による附属不要論の台頭、実習に対する大学教員の積極的関与の低下といった大学・地域との連携の模索、子どもの実態と教育実習の目的のずれといった本来の目的からの乖離を指摘など厳しいものがあります。

こういった現状にたち、今一度、図画工作科・美術科の教科性と必要性を内外にアピールするネットワークを確立し、協力する運動体でありたいと願います。

## 教科内容学の

## ワーキンググループについて

松浦昇（金沢大学）

今、美術部門において、美術教育として何を考え、何を行動すべきか問われているとしたら、教科専門の教科内容学の検討ではないでしょうか。ひとりでは出来ないで、是非、美術部門で検討したい、検討して欲しいと思っておられた教科専門担当の先生方が多くおられるのではないのでしょうか。私は多くの先生方の後押しを受けるのを感じながら、高知市の高知大学で開催された第2回全国美術部門委員会で提案しました。昨年8月大阪市で開催された第32回国際美術教育学会に参加して、イギリスが美術・デザイン教育を通じて新しい産業の創出を考え、そのために教育内容や組織を強化する計画である旨の報告を聞いて、デザイン先進国であることを改めて認識させられ、また、新しい社会、バランスのとれた成熟した文化社会の創造が語られ始め、美術教育の国際性を強く感じました。

ワーキンググループは、絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術史等の各分野の教科内容学を検討、教科教育と連携しながら、美術教育の教科内容学を纏めていく事になりますが、ひとりでも多くの先生方に参加していただき、美術教育の未来を明るくしたいものです。

## 全国造形教育連盟大学部会報告

全美協との連携を深め、歴史的な第一歩が実現

橋本光明（信州大学）

大学部会は、全国造形教育連盟(以下、全造連)との窓口であると共に私学の全国大学造形美術教員養成協議会(以下、全美協)との窓口でもあります。すなわち、全美協と一体で全造連大学部会を形成しています。

しかし、本部門と全美協とに全造連参加の考え方に温度差があります。全造連全国大会で合同の研究発表会を実施してきましたが、本部門は、発表の場として学会があるのに対して全美協は、全造連を活用します。

そこで、高知大会において全美協代表の阿部寿文氏(大阪女子短大)と関係者で協議し、愛知大会の学会で全美協の教員の研究発表を取り入れるようにします。これにより長年の願いであった全造連全国大会での現場教員との一体的な教育実践や教育研究等が全造連千葉大会から企画・試行する可能性が大きくなりました。

# 日本教育大学協会全国美術部門 平成 20 年度役員組織

委員長 橋本光明 (信州大学)  
副委員長 松浦 昇 (金沢大学)  
同上 大宮康男 (静岡大学)  
常任委員 藤澤英昭 (千葉大学)  
同上 藤江 充 (愛知教育大学)

## 総務局

局長 増田金吾 (東京学芸大学)  
部門総務部長 山田一美 (東京学芸大学)  
学会総務部長 山口喜雄 (宇都宮大学)  
総務部委員 新関伸也 (滋賀大学)  
三澤一実 (武蔵野美術大学)  
藤田英樹 (信州大学)  
大泉義一 (横浜国立大学)  
芳賀正之 (静岡大学)  
事務部長 佐藤聡史 (民間)  
事務部員 柳澤 愛 (民間)

## 地区代表委員

(北海道) 佐藤昌彦 (北教大学札幌校19-20年度)  
福山博光 (北教大学岩見沢校20-21年度)  
(東北) 蝦名敦子 (弘前大学19-20年度)  
煤孫康二 (岩手大学20-21年度)  
(関東) 栗田真司 (山梨大学19-20年度)  
横尾哲夫 (埼玉大学20-21年度)  
(北陸) 隅 敦 (富山大学20年度)  
高石次郎 (上越教育大学20-21年度)  
(東海) 宇納一公 (愛知教育大学19-20年度)  
辻 泰秀 (岐阜大学20-21年度)  
(近畿) 新関伸也 (滋賀大学19-20年度)  
長谷川哲哉 (和歌山大学20-21年度)  
(四国) 山木朝彦 (鳴門教育大学19-20年度)  
安藤恭一郎 (香川大学20-21年度)  
(中国) 内田雅三 (広島大学19-20年度)  
小野山和男 (岡山大学20 - 21年度)  
(九州) 池川直 (鹿児島大学 19-20年度)  
永津禎三 (琉球大学20 - 21年度)

監事 石川 誠 (京都教育大学19-20年度)  
上野行一 (高知大学 20 - 21年度)

## 附属学校委員会

委員長 岩崎由紀夫 (大阪教育大学)  
委員 天形 健 (福島大学)  
金子一夫 (茨城大学)  
新井哲夫 (群馬大学)  
佐藤哲夫 (新潟大学)  
大嶋 彰 (滋賀大学)  
石川 誠 (京都教育大学)

## 全国造形教育連盟大学部会

委員長 橋本光明 (信州大学)  
事務局長 増田金吾 (東京学芸大学)  
委員 佐藤昌彦 (北教大学札幌校)  
蝦名敦子 (弘前大学)  
栗田真司 (山梨大学)  
高石次郎 (上越教育大学)  
辻 泰秀 (岐阜大学)

日本教育大学協会全国美術部門  
平成 19 年度事業報告

日本教育大学協会全国美術部門  
平成 19 年度会計報告

〔平成19年〕

- 5月中-下旬 役員委嘱交渉
- 6月14日 年度諸手続文書発送、「兵庫大会」開催日通知
- 6月16日 第1回全国美術部門委員会（新橋・航空会館）
- 6月下旬 教大協全国美術部門「兵庫大会」案内発送（申込システム） 藤田事務局長代行を事務局長とする
- 9月中旬 「兵庫大会」第2次案内発送
- 10月中-下旬 平成18年度会計監査
- 10月20日 教大協全国美術部門「兵庫大会」参加申込締切
- 11月3日 第2回全国美術部門委員会（神戸・兵庫県学校厚生会館）
- 11月4日-5日 「兵庫大会」開会式・部門総会・合同懇親会等(神戸国際会議場)
- 11月14日-16日 第60回全国造形教育研究大会「熊本大会」(全国造形教育連盟と日本教育美術連盟の共同開催)
- 14日 大学部会(昨年度より本学会からの研究発表者は派遣しない)
- 12月22日 次期委員長選考委員会（新潟：直江津）

〔平成20年〕

- 1月25日 日本教育大学協会全国研究部門連絡協議会(学芸大学)
- 2月21日 選考委員会結果報告  
現委員長の継続を全委員へ報告
- 3月6日 委員長から全委員へ部門改革案を提出
- 3月17日 第3回全国美術部門委員会(上野・東京文化会館会議室) 現委員長の次年度継続を承認 委員長提案の部門改革案及び新組織について承認
- 3月下旬 部門会員名簿作成完了
- 4月8日 日本教育大学協会事務局に部門活動報告書提出

収入の部

(単位 円)

費 目	平成 19 年 度予算案	平成 19 年 度決算	増 減	備 考
前年度繰越金	285,618	285,618	0	
会員年会費				
大学会員会費	1,140,000	1,023,000	-117,000	3000X341人
附属学校 会員会費	30,000	18,000	-12,000	3000X6人
小 計	1,170,000	1,041,000	-129,000	3000X347人
教大協助成金	80,000	80,000	0	
雑収入				
広告掲載料	0	0	0	
利子	80	359	279	
開催大学返金	0	0	0	
その他	0	0	0	
小 計	80	359	279	
合 計	1,535,698	1,406,977	-128,721	

支出の部

(単位 円)

費 目	平成 19 年 度予算案	平成 19 年 度決算	増 減	備 考
事業費				
全国評議会 補助金	700,000	700,000	0	兵庫教育 大学へ
会報刊行費	80,000	0	-80,000	
名簿刊行費	200,000	28,220	-171,780	
研究会参加 補助費	0	0	0	
特別調査費	0	0	0	
全造連関係費	20,000	0	-20,000	
協議会 講演会費	30,000	30,000	0	兵庫教育 大学へ
小 計	1,030,000	758,220	-271,780	
会議費				
常任委員会費	20,000	0	-20,000	
全国委員会費	50,000	34,038	-15,962	
各種委員会費	70,000	107,900	37,900	
委員等経費	100,000	99,150	-850	
拡大委員会 補助金	0	0	0	
小 計	240,000	241,088	1,088	
事務局費				
交通費	50,000	41,160	-8,840	
通信費	20,000	12,750	-7,250	
事務費	10,000	21,525	11,525	
雑費	10,000	0	-10,000	
小 計	90,000	75,435	-14,565	
予備費	175,698	0	-175,698	
次年度繰越金	0	332,234	332,234	
合 計	1,535,698	1,406,977	-128,721	

## 日本教育大学協会全国美術部門 平成 19 年度会計監査報告

平成 19 年度会計監査については、平成 20 年 11 月 1 日高知大学にて監査委員会が開催され、以下の通り報告されました。

日本教育大学協会全国美術部門

委員長 橋本光明 様


平成 19 年度日本教育大学協会全国美術部門の会計について、平成 20 年 // 月 / 日 監査委員会を開催し、会計監査を実施しました結果


1. 収支について伝票類と帳簿類を対照監査した結果、それらが正確に仕訳、記載されていました。
2. 収支の伝票類と帳簿類は整理され、収支の内容・使途も明確に記載され、会計が適切に処理されていました。
3. 帳簿差引残高及び貯金・現金残高と決算書との対照も行いましたが、正確であることを確認しました。

以上のごとく、平成 19 年度会計の処理及び決算が正確に執行されていたことを報告いたします。

平成 20 年 // 月 / 日

日本教育大学協会全国美術部門

監事 都築知春 

監事 石川 謙 

## 日本教育大学協会全国美術部門 平成 20 年度事業計画

### 〔平成20年〕

- 4月上旬 中旬 役員及び総務局理事委嘱交渉
- 4月26日 第1回総務局理事会 総務局拡大理事会(東京文化会館)
- 5月18日 第2回総務局理事会 (淡交社 東京支社)
- 6月21日 第1回全国美術部門委員会 (東京文化会館)
- 6月30日 部門会員に関する文書及び「高知大会」第1次案内を各大学宛発送 全国美術部門通信同時発送
- 8月3日-5日 全国造形教育連盟・「InSEA世界大会」記念全国図画工作・美術教育研究大会in大阪(大阪府教育会館・大阪教育大学附属平野小学校)
- 8月3日 全造連大学部会総会 (大阪府教育会館)
- 8月5日-9日 第32回InSEA(国際美術教育学会)世界大会in大阪開催(大阪市・大阪国際交流センター)
- 10月13日 第3回総務局理事会(東京学芸大学)
- 10月中-下旬 平成19年度会計監査
- 11月1日 第2回全国美術部門委員会(高知大学)
- 11月2日 全国美術部門「高知大会」開催(高知大学)開会式、部門総会、合同懇親会等
- 11月3日 開催大学引継ぎ会 (高知大学 愛知教育大学)
- 12月中旬 全国美術部門名簿(簡略化した名簿)刊行予定、18,19年度部門会報刊行予定

### 〔平成21年〕

- 1月下旬 日本教育大学協会全国研究部門連絡協議会(東京学芸大学)
- 1月31日 第4回総務局理事会(東京学芸大学)
- 2月上旬 20年度部門会報及び名簿発送予定 (18,19年度部門会報同封)
- 3月中旬 第3回全国美術部門委員会 (東京文化会館)
- 7月下旬 平成20年度会計監査予定

日本教育大学協会全国美術部門  
平成20年度予算

美術部門 Web サイトの開設  
芳賀正之（静岡大学）

収入の部

(単位 円)

費目	平成20年度予算案	平成19年度決算	増減	備考
前年度繰越金	332,234	285,618	46,616	
会員年会費				
大学会員会費	1,080,000	1,023,000	57,000	3000X360人
附属学校会費	18,000	18,000	0	3000X6人
小計	1,098,000	1,041,000	57,000	3000X366人
教大協助成金	80,000	80,000	0	
雑収入				
広告掲載料	0	0	0	
利子	120	359	-239	
開催大学返金	0	0	0	
その他	0	0	0	
小計	120	359	-239	
合計	1,510,354	1,406,977	103,377	

支出の部

(単位 円)

費目	平成20年度予算案	平成19年度決算	増減	備考
事業費				
全国評議会補助金	700,000	700,000	0	高知大学へ
会報刊行費	40,000	0	40,000	no.35.36.37
名簿刊行費	40,000	28,220	11,780	
研究会参加補助費	0	0	0	
特別調査費	0	0	0	
全造運関係費	20,000	0	20,000	
協議会講演会費	0	30,000	-30,000	
小計	800,000	758,220	41,780	
会議費				
常任委員会費	0	0	0	
全国委員会費	50,000	34,038	15,962	
各種委員会費	70,000	107,900	-37,900	
委員等経費	100,000	99,150	850	
拡大委員会補助金	0	0	0	
小計	220,000	241,088	-21,088	
事務局費				
交通費	100,000	41,160	58,840	
通信費	20,000	12,750	7,250	
事務費	50,000	21,525	28,475	
雑費	10,000	0	10,000	
小計	180,000	75,435	104,565	
予備費	310,354	0	310,354	
次年度繰越金	0	332,234		
合計	1,510,354	1,406,977	103,377	

日本教育大学協会全国美術部門の情報については、大学美術教育学会のホームページ（Webサイト）に載せてあります。サイトのアドレスは、以下の通りです。

<http://saeu.arrow.jp/wiki.cgi>

Webサイトの詳しい内容は、「大学美術教育学会会報（第12号）」に書いてありますが、ここでは美術部門に関する内容について述べます。

学会のWebサイトは、Wikiを使い作成しています。コンテンツについては、学会運営WG委員会で検討されたものを参考にしましたが、現状にあったものを考え、以下のようになっています。

項目別メニュー・・・大学美術教育学会案内 / 全国美術部門案内 / 学会誌投稿案内 / 全国大会・研究発表会 / 全国美術部門協議会  
目的別メニュー・・・会員入会・退会 / 美術部門  
会員登録 / 学会誌  
広報・・・学会通信 / 全国美術部門通信  
委員会  
その他・・・各ブロック / お問い合わせ / リンク

今後、全国美術部門案内のページでは、部門の概要を記したいと思います。美術部門会員登録のページについては、手続き等に関する説明を入れ、用紙のファイル（ワードとPDF）をダウンロードできるようにしたいと思います。

事業計画と報告のページについては、研究大会開催期間における総会後において、資料を載せることとなります。全国美術部門通信のページについては、最新の通信だけを載せておりますが、バックナンバーとして、今まで発行されたものをPDFで載せることを検討しています。

全国美術部門協議会のページについては、部門における検討課題等の内容を取り上げていきたいと考えていますが、現在、「美術教育における教科内容学の検討ワーキンググループの設置について」の資料を載せてあります。

平成 21 年度 日本教育大学協会  
全国美術部門協議会  
「愛知大会」のご案内

愛知教育大学大会実行委員長 宇納一公  
(愛知教育大学)

大会の日程が決まりましたのでお知らせします。

1. 会期 : 平成 21 年 9 月 26 日 (土)・27 日 (日)
2. 会場 : ナディアパーク  
デザインセンタービル内  
(名古屋市中区栄三丁目 18 番 1 号)

### 3. 大会開催にあたり

昨年 11 月に開催された高知大会の余韻醒めやらぬ間に引き継ぎが行われ、今年度は開催大学として愛知教育大学が担当することになりました。創造科学系美術教育講座教員養成系教員一同、不慣れながら誠心誠意準備を進めさせていただきます。当初は三河の地、刈谷市を所在地にしております本学を学会の主会場として予定するつもりでございました。しかし、学会員の皆様にせっかく来ていただくならば、交通の便や宿泊施設、文化施設等の充実した名古屋市内で開催をしてみたらとの若手教員の支持があり、普段は田舎暮らしに慣れております私どもも頑張って名古屋に行こうということになりました。

かつては戦災による市街地の焼失や昭和 34 年の伊勢湾台風による被害に加え、昭和 30 年代から 40 年代にかけての市街地の急速な進展により緑は大幅に減少し、昭和 40 年代末頃には「白い街」と言われた名古屋も、緑化都市宣言やデザイン都市宣言などを掲げて大きく変貌してきました。名古屋駅前ツインタワーや栄のオアシス 21 などの商業施設や、愛知県芸術文化センター、名古屋市美術館等の文化施設以外にも見所が沢山ありますので大会終了後に、併せてご覧頂けると幸いと考えております。

愛知大会を迎えて、東海地区の静岡大学、岐阜大学、三重大学の教員の方々にご協力をいただき、少しでも名古屋らしい、愛知らしい、愛知教育大学らしい大会になることを念頭に準備を進める所存です。

多くの会員の皆様の参加と発表を期待し、充実した大会となることを祈念しております。

## 事務部よりご挨拶

事務局長 佐藤聡史  
(東御市梅野記念絵画館 学芸員)  
事務部員 柳澤 愛

信州大学・橋本先生とのご縁から平成 20 年度より、総務局事務部の業務を担当しております。大役をお任せありがとうございました。非力ではございますが、よろしくお願いたします。

本日は、ご挨拶とともに今後の事務部業務の省力、効率化のために会員の皆様をお願い等がございます。

- 1 メールアドレスは、諸連絡のため必ず事務部へ登録して下さい。また、携帯アドレスではなく極力 PC アドレスにてお願いします。
- 2 ご退職、ご異動並びにご退会に関する情報、連絡は必ず入れて下さい。
- 3 会費の納入控えは、必ず保存しておいて下さい。

上記につき、皆様のご協力をお願いいたします。